

## 司書・司書教諭課程開設10周年祝辞

明治大学長

納 谷 廣 美

皆さん、こんにちは。学長の納谷です。このたび司書・司書教諭課程が10年目を迎えたということ、本当にうれしく思っております。実は、この課程をつくるときの実務的な責任者は私でしたので、そういう意味でも思い出が多い。しかも期待していたものでしたので、10年という歳月が過ぎていますが、当時のことを昨日のように思い出しながら、今日ここに参加させていただくことができ、大変光栄です。

近況につきましては伊藤先生からお話があると思いますので、当時のことを思い出しながらお話しさせていただいて、ご挨拶に代えさせていただきますと思います。

本日の記念講演、シンポジウムはもちろん大きな行事ですが、私たちから見ると、この明治大学に図書館情報学研究会を立ち上げていくことが、これからの歩みのためには非常に重要なことで、このことをこの記念行事の間に挟んで発足させていただいたことは、うれしく思っております。

やはりわれわれは制度をつくれば、そのままというわけにはいきませんので、図書館をめぐるいろいろな問題をどうにかたちで一つひとつ改善し、また次の段階に結びつけていくかということを考えなければなりませんので、その意味でも研究会ができてきたこと、非常にうれしく思っています。ぜひ成功させていただきたいと思います。

導入の当時のことについて若干お話しさせていただきますと思います。私は当時教務部長という立場にあり、そのあと法学部長を経ていまの学長に至っておりますが、教務部長の最後のほうで、当時の戸沢充則学長から司書教諭課程をつくってこないかという話がありました。

同時に、当時の図書館長は後藤総一郎先生ですが、一緒に司書課程もつくってほしいという話がありました。その結果、同時に大きな課題2つを引き受けることになりました。当時は学長のほかに教学関係を仕切るのは教務部長の大きな仕事でしたので、そういう意味で引き受けることになりました。

もちろん当時、教職課程の再課程認定という10年に1度の大きな仕事もありましたが、図書館を見直していくことについて大きな動きがあった年でもあったと記憶しています。



はっきり申しまして、当時は、子どもたちが図書館との関係、あるいは本を読むことと言ったほうがわかりやすいかもしれませんが、そういうことが問題ではないかと提起されて、危機意識を持っていました。小学校や中学校の図書館に行っても、大学もそうですが、本を読む人が少なくなって、これでいいのかということが問われていました。

そんなかたちで教諭の中でも、皆さんご存じのように単なる「教科」の先生だけではなくて、本を読むことをきちんと促していくということを含め、司書教諭として新しい制度をつくるのがそのときの政策の一つでした。私どもとし

ては、明治の教職課程を終えて全国で活躍される先生方のご協力を得ながら、またその先生方をサポートするためにも、ぜひ導入してみたいと思ったのが、明治大学が動き始めたそもそもの動機でした。

付加価値を付けるという若干語弊がありますが、先生方に司書教諭の資格を持って就職していただいたほうがよろしいのではないかということが、大学の政策として行われたということです。

実際、そのときに驚いたことですが、司書課程がありませんでした。明治はこれだけ大きな規模の図書館を抱えていて、司書課程がないというのは、どう考えてもおかしかったわけで、司書教諭の課程をつくるのであれば、長い間いろいろな問題があったようですが、併せて司書課程もつくったらどうかということで、一挙に二つの課程が生まれました。それが10年前だったわけです。

ご存じだと思いますが、その後教職員の人たちが一丸となって、図書館をどのように利用して教育のほうに反映させていくかということに力を注いでいきました。結果、数年前にその取り組みがGPに採択されました。図書館を学びの場、教える場にどのように密着させて展開していくかを明治の一つの指針として、動きだしました。そういう一連の動きの中で、明治大学の新しい改革をさせていただき、今日来ているということです。

私は、この大学にとって、そして大学全体にとって、図書館がどんなに大切なものであるかは承知しています。しかし、その図書館を単なる本の倉庫、蔵書というかたちで保管するだけの話ではなくて、それをどのように利用して、社会との連携の中でどういうふうに提供し合えるのかということも大切な視点ではなかろうかと思っています。こういう課程を通してしっかりと学び、そして実践に移せる人材を育てていった歳月が、この10年間であったと思います。

私としては、非常に成功した一つの改革であったのではないかと考えていますし、ぜひい

まおられる学生の皆さんにもこういう明治の思いを自分たちの将来の夢にかけて、勉強していただいて、明治の中で育ち、そして飛び立っていただきたいと思っています。

私どもとしては、この明治大学図書館情報学研究会が、さらに大きな成長を遂げるとともに、活躍されることを願っています。それから両課程については、いままで以上に、さらに目標を高く掲げて一層改善に努めていくことをぜひお願いしたいし、それができたらと思うっております。

今日、ご参列の皆さんには、ぜひそういう動きにご理解とご協力をお願いしたいと思いますし、併せてご参加されている皆さん方のご健勝とご活躍を祈念して、私の挨拶とさせていただきます。どうもありがとうございました。